

中学校社会科における「身近な地域」の学習の単元開発[†]

—単元を通した「話し合い」による授業実践の試み—

大嶋 正克*・熊田 禎介**
下野市立石橋中学校*
宇都宮大学教育学部**

近年における地域の急激な変化は、地域を自明の存在とし、それを子どもたちにとって「身近な」教材・教育内容としてきた地域学習のあり方に大きな問い直しを迫っている。本研究では、中学校社会科の「身近な地域」の学習において、単元を通した「話し合い」を取り入れた授業実践を行った。授業分析と単元終了後における生徒の作文から、子どもたちの生活経験や実感に基づく発言を大切に「話し合い」を通して、子どもたちの「身近な地域」に関する認識を掘り起こしていくことの重要性が確認された。

キーワード： 中学校社会科、「身近な地域」の学習、「話し合い」、生活経験、実感、生活圏

1. はじめに

本研究は、中学校社会科の「身近な地域」の学習において、単元を通した「話し合い」を取り入れた授業実践を行ったものである。本稿では、その成果の一部として、本単元の構想・概要を提示するとともに、単元の導入部分における1時間の授業分析や単元終了後の生徒の作文を通して、本授業の成果と課題について論及する。

本単元「私たちのふるさと(野木町)」の開発・実践にあたって一つの視点としたのは、中学校社会科における「身近な地域」の学習のあり方に関してである。社会科教育における地域学習のあり方やその意義については、小学校中学年を中心にして多くの研究の蓄積があることは周知の通りである¹⁾。

しかしながら、近年における地域の急激な変化に対して、従来のように地域を自明の存在とし、それを授業のなかに教材・教育内容として取り入れるだけでは、個別化・閉塞化されている生活世界を有する子どもたちには、最早、教育的機能を果たせなくなっているとの指摘もある²⁾。

そもそも現在の子どもたちにとって、地域はどのように認識され、また地域を学ぶことの意味はどの

ように捉えられているのだろうか。中学校社会科における「話し合い」の授業のなかから、子どもたちの「身近な地域」に関する認識について探ってみることに、そのことが本研究の出発点である。

2. 学校・学区の概要と生徒の実態

(1) 学校・学区の概要

今回授業を実践した野木町立野木中学校は、生徒数355名(2012年当時)と比較的中規模の学校である。実践の舞台であり教材でもある野木町は、栃木県の最南端に位置し、面積はおよそ30.25 km²と県内14市12町の中で最も小さい自治体である。江戸時代は古河藩領であったことから、今日でも多くの住民が県内よりも茨城県に生活圏を置いている。1980年代には東京都市圏のベッドタウンとして駅前に大規模な住宅地(ローズタウン)と工業団地が造成され、多くの人口が首都圏から流入した。そのため1990年には新たに野木第二中学校が創立され、町内は2つの学区に分かれることとなった。

「栃木都民」が大半を占める野木第二中学校に対し、野木中学校は昔ながらの住民が多く、役場や駅といった公共施設が設置されている地域以外は、自然林や農地が広がるのどかな地区である。町域のおよそ2/3が野木中の学区で、北は小山市、南は古河市に隣接する広い範囲から生徒たちは通学している他、中学校一部選択制により、毎年15名を超えない範囲で互いの学区を越えた通学も認められている。また、野木中学校は、これまでに卓球で全国大会制

[†] Masakatsu OOSHIMA*, Teisuke KUMATA** :
Development of a Unit for Community Learning
in Junior High School Social Studies.

* Ishibashi Junior High School

** Faculty of Education, Utsunomiya University

覇や陸上競技・剣道などでも県・関東大会レベルで上位入賞を果たすなど、大変部活動が盛んな地域でもある。保護者の中には、かつての全日本チャンピオンや世界選手権代表選手といったアスリートたちも数多く存在しており、そのような事情が、恵まれた学校施設に反映されているのかもしれない。

(2) 生徒の実態

このような環境のもと、野木中学校の生徒たちは、周囲から聞こえてくる非行や反社会的な動き、「荒れ」とはまったく無縁であるばかりか、ほのぼのとした穏やかさや純朴な言動は、他校から羨望の眼差しで見られるほどであった。

本実践の対象となった第2学年の生徒たちも、これまでの例に漏れず、男女とも和気藹々とした生活ぶりである。この学年は、他学年と比べて1クラスあたりの生徒数が30人以下と少ない。今回はそれら4クラス中から、1クラスを抽出した。当該学級は、男子14名、女子12名の計26名で、男子数名を中心に活気ある雰囲気を作り出している反面、女子はどちらかというとおとなしめで男子のノリに追随している。授業でも定期テストで学力上位にいる生徒ほど主体的な発言はせず、性格面ではきはきした言動の者が、疑問に思ったことをつぶやいたり、質問するなどして盛り上げているような状態である。

単元学習に関わる実態としては、これまでに調べ学習をしてきたことや学級全体で問題意識を共有するような学習を一切経験していない。小学校の時に「地域」を学習してはいるが、具体的な内容はあまり覚えておらず、アンケートでは町の中をひたすら歩いた記憶や、どこかの工場を見学して記念品をもらった思い出といった類いのものしか覚えていない様子であった。学区内での出身小学校を見てみると、南赤塚小学校15名、友沼小学校4名、佐川野小学校6名、野木小学校1名（中学校一部選択制により、野木第二中学区から野木中学校に在籍）となり、南赤塚小学校区の生徒だけで半数以上を占めている。

3. 単元の概要

(1) 単元計画

中学校の社会科は、地理的・歴史的・公民的分野の3分野に分かれて実施されている。このような現状は、ともすれば各分野で養われてきた社会的事象に対するもの見方や考え方を、その分野でしか発揮できないものに限定してしまう恐れがある。しかし、それぞれの分野で培ってきた能力を相互に生か

しきることができれば、社会的事象に対する認識をより豊かにすることができる。本来、社会科とはそうあるべきものである。

第2学年の生徒たちは、本実践の前年度まで旧学習指導要領による教育課程であったため、既に地理的分野の「身近な地域」は学習済みである。しかし、年度末という限られた時数であった上、3月11日の東日本大震災によって授業が短縮されるなど、不十分な追究を余儀なくされていた。そこで、本単元では、地理的分野の内容(2)エと歴史的分野の内容(1)イを、「身近な地域」という共通の足場によって結びつけてみた。昨年度における社会科授業の経緯を踏まえ、導入段階では地形図を活用した地理的分野の授業を行う。町内における土地利用の変化を見ていくに及び、生徒たちは他地域との比較や類似といった空間的な把握だけでは理解することのできない現象があることに気づくであろう。このような地域の変化を具体的に追究するためには、時代の違いという時間軸のものさしや、制度の改変といったように、地理的分野とは違った見方・考え方が必要となる。つまり、授業の入り口こそ地理的分野の学習内容であっても、追究の過程で歴史的分野や公民的分野による視点の要素が必ず入り込んでいくような単元構成とした。

また、新学習指導要領については、社会科における改訂のポイントのうち言語活動の充実を中心に据え、本単元を通して「話し合い」の授業を実施することとした。多くの一斉授業では、授業内容に伴う「知識」の習得が、教師からの一方向的な伝達によって為されていくことが多い。そのためか、それら知識の定着を定期テストによって確認するのが一般化されている。しかし、これでは教師が与えた知識構造をそのまま保持することになるため、生徒たちの認識は固有名詞の域を超えることができず、その言葉を「知っている」か「知らない」という幅の狭い知識に押し込めてしまう。これに対して本単元で実施する話し合いの授業では、教材を通して得られる知識の幅が広くなる上、それらを捉える生徒個々の認識の違いも浮き彫りになる。また、固有名詞段階での認識だけでは、自分の言葉で語ることでできない。

このように既習知識を活用していく場を設けることによって、生徒たちが各々の知識構造の中で「地域」を概念化していくと考えた。このような本実践

で必要不可欠なのは、身近な事象の教材化である。ここでいう身近な事象の教材とは、生徒たちの生活圏とか学区・地域というような物理的な近接性ではなく、あくまで体験的な触れ合いを通して得られた心情的な距離感であることを強調しておきたい。

(2) 単元全体の学習過程

本単元については、2012(平成24)年2月29日から3月15日にかけて、授業実践を行った。

第1時では、教材として1907(明治40)年の地形図(1/50000「古河」・「結城」)と1996・1997(平成8・9)年の地形図(1/50000「古河」・「小山」)をそれぞれ土地利用別に着色し、カラーコピーしたものを配付した。生徒たちはこの2枚の地形図を比較して、それぞれが違う点や変化したと思ったことを発表していく。「村だった」「文字の表記が左右逆」「市街地の位置が変わった」「駅がない」という発言が出されたが、この時点ではまだ関連させて広げていくような発言はあまり見られず、終始単発的な発表の場となった。ここで授業中の発言だけに絞ってみると、町全体の変化や相違点への着目の仕方それぞれの個性が感じられるのだが、授業後に書かせた感想を見ると、学校に関する興味や疑問をあげた生徒たちが26名中14名(複数回答あり)と多かった。

第2時では、前時で得られた生徒たちの興味・関心の方向性に即して授業を組み立ててみた。すなわち学校に関するテーマである。授業の冒頭で小学校の設立年月を提示したところ、出身小学校であるにも関わらず昔の学校名を知らなかったことを表明する生徒が現れるなど、教材への親密性が見られ始めた。そのような中、互いの住む家がどこにあるのかを気にし始める場面が起きる。この事実は、地形図からそれとなく自分たちの住む地域を傍観していた彼らが、生活経験や実感に即して本当に地域を見つめる眼差しをもち始めた瞬間と位置づけられる。やがて生徒たちの発言から「学校はどんな所にできるのだろうか」という共通の問題意識が芽生えることとなる(本時については、次節で言及する)。

第3時は、前時の最後に人口との関連を指摘した生徒がいたことから、明治期における町の字別人口・戸数を示した資料(『野木町史』より)を配付した。この時点で生徒たちは、前時に学校別の出身者数を確認していたため、あくまで現生徒数からの推測ではあるが、現在の字別人口の傾向は掴んでいる。したがって、この日配付された資料から人口や

戸数までもが現在と明治時代とでは大きな違いがあったことを容易に理解することができたのだが、それでもそのギャップには驚きを隠せていない。特に野木小学校の設立が町内最古であることには、「その謎を知りたい」とか「調べてみたい」という追究への意欲が授業後の感想からも確認できる。また、野木小学校は本来、野木中学校の学区ではないため、この学年唯一の野木小学校出身者であるNRが今後の学習の鍵を握るとともに、自分たちとは違う生活圏内に住むNR自身への興味や理解も得られていくこととなっていく。授業の後半では、新旧2枚の地形図を改めて比較したことにより、現在では町の中心部となっている丸林地区が昔は集落さえなかった事実に着目する。ここでKDはこの変化を駅の設置がもたらしたものと発言する。授業記録からは確認できないが、授業後にTAは思わず「駅ってそんなに便利なんだー」とつぶやいている。こうした状況を受けて、第4時は各々が調べる時間とした。

第5時では、前時の後、たまたまインフルエンザの流行に伴い部活動が一斉に中止されたことによる時間確保が可能になったため、自分の出身小学校を訪れたNRが、実際に校長先生から聞いてきた内容を発表した。宿場町が置かれていたという歴史的な事実から、現在では想像しがたい野木地区の賑わいを理解するとともに、NRの調べに同行したKMが、以前から興味をもっていた寺社数の推移について発言する。この発表から、昔は寺が戸籍を管理していたが、役場の仕事になったため寺院が衰退したという推測につながった。NRも寺社の話題に関連して、野木小学校が現在の場所にあるのは野木神社が私有地を寄付したためであることを発言する。両者の発表によって、生徒たちの関心は寺社(10名:授業後の感想より)へと移行していく。

最後となる第6時の授業は、『野木町史』から町内にある寺社数とその種類をまとめた資料を配付したが、資料が詳細過ぎたこともあり、薬師堂と不動堂、観音堂の違いや廃寺と廃宗の違いは何かで混乱し、内容の把握に終始してしまった。

4. 授業の検討

以上の内容をふまえて、本節では、まず本単元における導入部分の第2時について授業分析を行う。そして、単元終了後における生徒の作文を取り上げた上で、本授業の成果と課題を整理する。

(1) 授業分析

①第1場面(14. KK～27. T)

先述したように、第1時の授業後の感想において、「一番古い学校はどこか？」等、学校に関する興味や疑問を挙げた生徒たちが半数以上を占めていた。そこで、第2時では、これらの生徒たちの興味・関心の方向性に即して授業を組み立てた。まず、野木町内における各小学校の設立年月を提示し、生徒各自の出身校について挙手・確認させた。その上で、一番最初に野木小学校が設立された意味について発問した(11T.)。この発問に対しては、1907(明治40)年の地形図(1/50000「古河」・「結城」,【図1】)に基づいて、KKが「どのくらい、あの、なんだっけ、こういう町があるところ、町つつうか、市街、市街地」(14KK.)と、学校は「市街地」に立地していると発言している。また、この発言後、1996・1997(平成8・9)年の地形図(1/50000「古河」・「小山」,【図2】)を配布したところ、OTは「はい。えっとー、(T. うん)町の(T. うん)外側から、外側に学校に、学校があるかなあって」(22OT.)と、学校が町の外側に(から)立地していると述べている。

KKの発言は、1907(明治40)年の地形図から「市街地」(人が多く住んでいるところ)と学校の位置とが一致している事実に着目し、学校の立地(さらにはその理由)を空間的に捉え、説明しようとしていると考えられる。そして、OTの発言は、以上のようなKKの発言を前提としつつも、野木町を全体として概観したときに「外側に」学校が立地していることを指摘している。また、ここで注目すべきは、「外側から」との表現であり、これは新たに配布された1996・1997(平成8・9)年の地形図との比較から、学校の設立が町の「外から」始まり、次第に現在の野木駅を中心した町の中心部へと移っていったとの歴史的な視点を有しているとも推測される。

これらの発言は、新旧の地形図を個別あるいは比較したことによる発言であり、いずれも地形図の読図に基づく発言であると捉えうる。

②第2場面(28. NR～68. OK)

以上のような発言や話し合いの質に変化が見られる場面は、NR「学校の近くに神社がある」(28. NR)の発言に始まる一連のやりとりである。この学年唯一の野木小学校出身者であるNRによるこの発言は、先述した新旧2枚の地形図の読図だけでは判断できないものであり、NR自身のこれまでの生活経験に基づいた発言であると考えられる。

続くOTの発言はこれを受けたもので、「はい、えとNRさんの意見のやつで、(T. はい)佐川野に近くには(T. うん)神社がないのかなあって」(33OT.)と問いを発している。この問いについては、その後、挙手による佐川野小学校出身者の確認を通して、HAに始まる一連のやりとりにつながっている(34T.～40T.)。

そして、先のKK・OTの発言を受けたと考えられる「はい。市街地に(T. うん)小学校があるって言ってましたけど、(T. うん)川田のそこにはない」(42TA.)とのTAの発言を契機として、川田の「市街地」と佐川野小学校の距離・位置関係(【図2】地名参照)についてのつぶやきや生徒同士の自然なやりとりが生まれはじめる。さらに、それはOKを中心として、KMの自宅から学校までの通学時間や地理等、佐川野小学校の学区や日常の生活圏を確認するに至っている(43T.～60OK.)。

③第3場面(69T.～97. CY)

以上のような生徒同士によるやりとりを見取った上で、生徒同士の話し合いを深めるために、再び学校の立地場所・条件について再考を求めた(69T.)。「なんで一番古いのが野木小だったの？一番最初は野木なの、この町では」(72T.)との発問に始まる話し合いのなかでは、生徒それぞれの根拠に基づく発言とやりとりが見られる。

KMは、最初は「野渡に市街地があったから」(73KM.)と答えながらも、「あったぶん、あれじゃない。人口が多かったんじゃない、そこらへんに、野渡の。」(78KK.)との意見を受けて、「えーでも、市街地があるからって人口が多いとは限らないじゃないですか。」(80KM.)と述べている。学校の立地場所・条件を人口との関連において捉えようとした考えに対して、先のやりとり(43T.～60OK.参照)にあったように、KMは、自身の日常の生活圏である川田の「市街地」と佐川野小学校の位置関係を見た場合、必ずしも市街地に人口が多い(=学校が立地する)とは限らないと類推しているのである。

それに続いて、生徒のなかから新たに「通いやすいってのは？」(82KK.)という意見が出されると、野木町の中で最初に学校ができる場所・条件を論点にした話し合いが展開していく。CYは、「通いやすいのは、真ん中であつた方が(T. うん、町の真ん中)とかのほう(T. うん)みんな集まる。」(84CY.)とし、その後も一貫して「通いやすさ」の観点

【図1】



(国土地理院 5 万分の 1「古河」・「結城」 1907[明治40]年測図，に一部加筆)

【図2】



(国土地理院 5 万分の 1「古河」・「小山」 1997[平成9]・1996[同8]年修正，に一部加筆)

から、「市街地」「線路」「踏切」といった具体的な地域・位置を思い浮かべながら、学校の立地場所・条件を考えている(95CY.～97CY.)。

このように、本時の授業展開では、前半の地形図の読図を中心とした資料的根拠に基づく発言から、次第に生徒各自の生活経験や実感に基づく発言へとその質が変化していることが確認される。そして、それが一つのきっかけとなって全体の話し合いへと展開し、生徒の視点がさらに広がっていることがわかる。このことは、(少なくとも)単元の導入段階の話し合いにおいて、生徒の生活経験や実感に基づく発言を丁寧に取り上げ、それを掘り下げていくことの重要性を示唆していると考えられる。

(2) 単元終了後における生徒の作文

本単元(6時間目)の終了後、「この授業を受けて」との課題で、生徒各自に作文を書いてもらった。この単元を通して、生徒たちがどのような「身近な地域」に関する認識を得たのか、その一端を見てみることにしたい。

僕は最初は、野木町を意識せずに暮らしていました。野木町の歴史などは一つも気にしていませんでした。ですが、社会の研究授業を通して野木町を見る目が変わりました。

昔に野木宿があったことや野木や友沼が人口が多かったことなど今まで自分が知らなかったことがいっぱいあった。昔からすると野木町はとても発展したなあと思いました。

野木町はあまり意識してなかったけど南赤塚のことは少し意識してたつもりだったのですが、自分の地域でも知らないことがいっぱいあって、もう少し自分の地域を知っておいたほうがいいなあと思いました。(IM)

僕は、研究授業を通して、考えることを学びました。みんなが自由に発言できるのは、とても良かった。人によって考え方がちがったり、似ているようでもちがっていたり、とても興味深かった。

僕は、授業をやる前とやり終えた後では、かなり町を見る目が変わったと思う。自分が住んでいるあたりの地域以外にほかの地域のことを知れてよかった。ほかの学校出身の人のその地域や学校に関する意見と自分のいっていた小学校とでは、ちがっていた・・・？

地域行事を無くさないためにも、積極的に行事に参加できるといいと思いました。(KD)

私は、研究授業をやる前までは、野木町で自分の住んでる地域のことしか、興味がなくて、野木町を全体的に見たことがありませんでした。今までは、

野木町はなんにもなくて、ふべんでつまらないところだなあと思ってました。学校だって他の学校は別にどうでもいいと思っていました。しかし、研究授業をやって、野木町も昔は野木村になっていて、学校などいろいろな歴史があり、初めて知ることばかりでした。野木宿があったなんて知りませんでした。今と昔では、野木町の風景がぜんぜん違ってびっくりしました。野木町に住んでいても、野木町について知らないことばかりでした。研究授業をやって、野木町もすごいところがあるんだあと、見直しました。でも、もう少し野木町になにかを作ってもいいと思います。(HA)

以上、主なもの3点を取り上げた。これらの作文からは、①知っているようで知らなかった野木町のこと、②自分の住んでいる自治会レベルの地域や出身小学校の歴史でさえ知らないことがたくさんあること、③普段は野木町に興味や関心を払わなかったこと、④級友の意見や考えを通して、野木町のことに関心・関心をもったり、物事を深く考えるようになったこと、⑤授業の前後で町を見る目や意識が変わったこと等が、本単元の授業を通して生徒たちに再認識されたと思われる。

5. おわりに

今回の学習指導要領では、中学校社会科の「身近な地域の調査」(地理的分野)で「生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めて地域の課題を見だし、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を養う」ことや「身近な地域の歴史を調べる活動」(歴史的分野)を通して「地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、歴史の学び方を身に付けさせる」ことが求められている³⁾。

地域の諸課題を明らかにし、子どもたちなりにその解決に向けた行動がとれるような地域学習⁴⁾が目指される中、その前提として本授業で見てきたような子どもたちの「身近な地域」に関する認識を掘り起こしていくことは、今後、さらに重要な意味をもつのではないだろうか。それはまた、地域への関心や地域の具体的な事柄とのかかわりを重視する歴史的分野の学習においても大きな足場になっていくのではないかと考える。このような点に関する実践と検討については、今後の課題としたい。

註

- 1) 朝倉隆太郎先生退官記念会編『社会科教育と地域学習の構想』明治図書、1985年)、朝倉隆太郎編

『地域に学ぶ社会科教育』東洋館出版社、1989年)等の先行研究を参照されたい。

- 2) 重松克也「社会科における学びと地域」(『日本社会科教育学会全国大会発表論文集』第4号、2008年)、木村勝彦「2008年度日本社会科教育学会課題研究報告」(日本社会科教育学会『社会科教育研究』第106号、2009年。後に『日本社会科教育学会課題研究「子どもの現実と社会科授業の成立」報告書』2011年、に所収)。
- 3) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(日本文教出版、2008年)、56・70頁
- 4) 澁澤文隆「地域学習」(日本社会科教育学会編『新版 社会科教育事典』、2012年)

謝辞

本稿の執筆にあたり、研究授業の実施に際しては橋本光弘校長先生をはじめ、野木町立野木中学校の先生方にご協力をいただくとともに、授業記録の作成・検討では、横山唯さんをはじめとした社会科教育専修の大学院生に助力をいただいた。記して深く感謝申し上げます。

【資料】授業記録(第2時、3月2日第1校時)

1T. えーでは、まず前回黒板に書いた内容のプリント配りました。今までとは違って今回は豪華カラー版です。(C. おー、いえーい)ノートに貼っててください。で、前回の授業で、最後に書いてもらった感想のところを見ても、学校にこだわりをもった人が多かったようですね。はい、そこで今日は連続した授業の2時間目なんですけど、学校について調べてきた人いますか？

(C. いますか?) (C. おー) (KK. おーまさかの) (IK. まさかの) (KK. あれ、MHさんは?) (GS. いらっしやらない)

2T. 人を頼っちゃいけないね、MHさんを。人を頼っちゃいけません。一人一人が勉強してんだから。いない、しょうがないな。(C. そういうふうにくると思った) (C. そう、うん)《ここで資料に用いた野木町史を生徒に見せる》

(C. おっ、おーうわっ) (C. 家から持ってきた) (C. 家から?)

3T. ありますよ。(C. 三国志みたい) 栃木県内の市町村全部持ってますよ。(C. すげーC. すげー) これ図書館にあるでしょ?(C. えっ、えっ) ありますよ。(KK. えっ、あの一奥のほうのやつ?) はい(C. えっ、いくらするんすか?) 値段は知りませんが。(KK. なんて、値段気にしないで買ってるんですか?) はい(C. おー C. かけー C. かけー C. こっからここまで全部とか? C. あっ、あるね、そういうの) ほとんどは

ね、みなさんが調べなきゃいけないんですよ、こういう授業って。(KK. がんばれー、あっ) だから、人任せはいけないんです、ね。人に任せたら誰もやらないでしょ?(C. あーやらない) しょうがないので、今日は教えます。今日はね。これじゃ困るんです。《板書》

明6年(1873)9月	乾時 ^{けんじがくしや} 学舎…野木小
11月	〃 第一分校…友沼小
	〃 佐川野分校…佐川野小
明9年	10月 訓蒙館 ^{くんもう} …南赤塚小
学校の制度…1872年(明6年)	

4T. だそうです。9月、これ今もある小学校です…野木小。11月、分校、こっから先はほとんどはみなさん言えなくちゃね。どこだか分かんない? えっ、中学校なの、小学校の話? こん中にいるでしょ?(C. 友沼) 自分の学校の歴史が分かってない。あっ、ごめんなさい。同じく、これは分かるよね。(KM. 佐川野) 《板書》

5T. こんな流れです。みなさんに関係する小学校で。分かるよね、一番古いのがどこだか。ちなみに、小学校の制度ができたのは何年ですっけ? 小学校の制度できたのは何年でしたっけ? えっ、前回の授業で誰か答えましたよ。プリントに載ってない?(C. さっきあった) (C. 18…) 書かなかったけ? 書いてないんですかね、すみません。でも、誰か答えたような気がするんですけど。小学校の制度できたのは何年でしたっけ? 調べられる人、どんどん調べてください、前回の授業のように積極的に。今日動きが鈍いですよ、みなさん。朝一番っていうせいもある。(C. よしー) (KM. 歴史の資料集…) どうぞ、動いてもいいですよ。うん、動ける人は動いてください。(NR. いたい KM. ごめん) (C. とった?) (C. これ、これ) (KK. なんてきれいな、教科書。おれのめっちゃ、使っていないのに。)

6T. はい、野木小出身者—NRさん。これを知ってどう思いましたか?

7NR. えっ、あ、えー、前の名前が(T. うん、前の名前が) あっ、あ、前の名前は初めて知った。

8T. あっ、知らなかったんだ。

(C. 反応がうける。KK. 今、野木小じゃないの?)

9T. うん、だそうです。分かった、小学校の制度いつからできたか?(KK. 1872年) うん?(KK. 1872年) 1872年。小学校の制度が、だそうです。もっかい確認の上で地図配りますか、前回のね。《1907(明治40)年の地形図配布》

10T. 一番初めにできた学校は野木小です。野木小の位置ってわかります? だいたいその地図の上で。(C. どこだー) うん、今も昔おんなじ場所なんですよ。(C. あれっ C. あれ C. 載ってない HA. 載ってない HK. 1枚だけ) 古河との境に近いほうだよ。ちょっと聞いてみるか。はい、出身校別に手

を挙げて下さいね。もっかいいきますよ。はい、野木小出身者手挙げて一NRさんだけね。はい、友沼小出身者手挙げて、1, 2, 3, 4, 4人(C. 少ない C. すくねー)4人(C. すくねー C. 友沼, すくねー)佐川野出身一(C. えっ, これしかいないの? C. えっ, 佐川野すくなっ。C. 少ない, 赤小が多い, 赤小が。)1, 2, 3, 4, 5, 5人。(C. うわっ, やだ, やだ。C. 赤小ばかじゃない C. やめた)はい、南赤塚小手挙げて一(KK・TM. はい)圧倒的一, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10(C. ずれた C. うわ, ずれた), 11, 12, 13, 14, 計算合う?(KK. KaMが入っていない, KaM)(KM. あーそうだ, KaM)今, 現在いる人数で。(C. あー C. 16, 17, 18 C. 19 C. 18 C. 24, 25 C. 24 C. 24 C. 一人挙げてない C. 一人足りない C. 一人挙げてない C. OKが後から挙げた C. 赤小一人足んない。)

11T. じゃその地図でさ、あの一出てきた小学校のだいたいの位置を、ちょっともう一回見てみる?あの一、残念ながら学校のマークなかったんだよね。前回見たときね、気づいた点。(TA. 先生, 赤小15です, 今いる人。)15, ありがとう。これで計算合う?(C. あう C. あう)25, うん。一番最初に野木小が出来たってことは、いったい何を意味するんだろうね。一番最初に野木小ってことは、これいったい何を意味するんだと思いますか、みなさん。

12KK. 野木小ってこの地図のどこらへんなんですか?

13T. うん, 古河の境。ちょっとこっち見て。この辺ですよ。

14KK. どのくらい、あの、なんだっけ、こういう町があるところ、町つつうか、市街, 市街地。

15T. 市街地がある, うん。じゃ、つぶやきですが、一応拾います。要するに、なに、KK君なんて言ったんだっけ、さっき?

16KK. あ、し、市街地(T. 市街地が)あるとこ。(T. どこに)小学校のとこ(T. あー)

17T. どうですか, KK君がこういうこと言ったんですけど。ちょっと確認して下さい、みなさん。KK君のこの説は、だいたい正しいと言える?どう?

(C. ちょっと遠くないですか)(C. したら)(C. 今)(C. そしたら, このへんって)

18T. うん, 全部で4つの小学校, ちょっと探してみたって。佐川野ってどのへんか分かります?(C. 佐川野?) (C. この向こうでしょ?)んじゃ、今の地図も配ったほうがいいかな?そのほうがいいよね、平成の地図も。(C. 前, 今の, この前の地図)(C. 市街地でしょ?) (C. 市街地?) (C. 今, 場所をさ)(C. 市街地)もう一回確認しますかね、じゃ両方配って。うん。《1996(平成8年)の地形図配布》

19T. うん, 4つの小学校でいいからちょっと確認して。今と昔と場所、野木中は場所が変わってるんですけど、あとは一

緒ですから。(C. ここが駅で, ここが赤小で)(C. ここが)いいよ, もっとガヤガヤして。楽しくやりましょう授業。はい、どう?うん, お互い確認し合っても構いませんよ。分かる?どこがどこだか。(Tの言葉を契機に席が近いもの同士でにぎやかに話し合い始める)

(C. 全然違う)(C. そういう)(C. えっ, なんでそうなの?)(C. かわんくない?)(C. えっ, あー)(C. そんなもんだよ)(C. 小学校は…) (C. えっ?)

20T. じゃ, KK君のこの意見に対して意見ください。どうですかあ, うん。なんでもいいから意見ください。

(C. なんだで?どうして)(C. 明治40年は)(C. あれっ, この辺に)

21T. うん, 今がどうこうってわけじゃないからね。あくまで明治40年の地図でもって下さい、ね。できたのは、そのときできたので。はい、どうでしょう。人を頼っちゃいけないですよ。じゃあ、はいOT君。

220T. はい。えっと一, (T. うん)町の(T. うん)外側から、外側に学校に, 学校があるかなあって。

23T. あー町の外側。境界線のほうってことかな?

240T. そうですね。

25T. 市街地って, ちなみにどういうところにあるの, そうすると。はい, じゃあOT君がこういう意見を出してくれましたが、どうでしょうか。あの、それぞれに説, 意見に対してさ、反対するとかさ、いやあるいは賛成するっていうの含めて言ってくれないと分からないので、そういうことも含めて言ってください。うん, 自分がどう思うかですよ。

26T. うん, どうですか。なんでもいいよ。付け足しても、疑問でも。思ったことは遠慮なく言ってください。

(C. 静かだね。)

27T. ね, 前回と大違いですね。どうですか。じゃ, NRさん, はい。

28NR. 学校の近くに神社がある。

29T. うん?学校の近くに

30NR. 神社がある。

31T. 神社がある, うん。

(C. ちがうし)(C. 歴史の単元でしょ)

32T. うん。じゃ, OT君。

330T. はい, えとNRさんの意見のやつで, (T. はい)佐川野に近くには(T. うん)神社がないかなあって。

34T. あっ, 佐川野は違うんじゃないかと。うーん, 佐川野小出身者一神社近くにありますかありませんか。地図に表記されてない, ちっちゃい神社かもしれないので。どうですかあ。

(C. いない)佐川野小手挙げて一, どうですかあ。佐川野小, 近く神社あるない?(C. ない)(KM. 右側の)(TM. ない)どっち

ですかあ、教えてください。(SE. ある)(KM. あるよね)(SE. ある)(C. 神社か)どっち?(C. えっ、あのお祭りやってたど)誰か答えて、佐川野小者。(C. いや、でも)(C. HA ってー)(C. いや、おまつ、やってた)(C. なんて言うの)分かる人が答えてください。どうですか、佐川野の人。どっち?誰かお願いします。(C. 違うの)(C. あるよ)はい、じゃあお願いします、HAさん。はい、静かに。

35HA. あります。

36T. ある

37HA. はい。

38T. おっかい神社?ちっちゃな神社?さっ、あ、あのーHAさんの的に。HAさんの的にはどっち?

39HA. えーなんだろう。(C. どっちだよー)(OK. あっ、あれか)ちっちゃいと思う。

40T. ちっちゃいと思う。そうすると、地図に出ないのが神社?(C. えっ)(C. えー)そこどうだろう?(C. えー)(C. うーん)(C. あっでも)(C. 地図に出ないか)(C. あっ、あれ、あれって)(C. そこまでじゃない)(C. そこまでじゃないね。)(C. そこまで大きくない)(C. うん)(C. あれ、おれんちにあるのって)(C. あるよ)(C. ほんとだ)(C. 佐川野にはない)

41T. はい、じゃあTAさん。

42TA. はい。市街地に(T. うん)小学校があるって言ってましたけど(T. うん)、川田のとこにはない。

43T. 川田にはない(KK. 川田ってどこ?)(KK. 川田どこ?)(OK. 川田ってめちゃくちゃ遠いよね。)(HA. 行ったの?)(OK. めちゃくちゃ遠かった)(C. めちゃくちゃ遠い)(C. 遠い)川田ってなに、何小学校の学区?(HA. 佐川野)(KM. 佐川野)佐川野。佐川野小とその川田の市街地の位置ってどう?(KM. めっちゃ遠い)めっちゃ遠いんだ。

44C. 川田に住んでんだ。

45HA. 遠いよね。(KM. 遠い)

46NH. KMさん(KM. はい?),どれくらい遠い?

47C. 朝何時に出てくるの、学校。(OK. 遠いよねえ、あれは。)

48KM. えー(HA. 何時に家出てくるの?)えっと7時10分。

49NH. えっ、はやっ

50OK. で、で、何時に着くの?

51KM. 7時半

52OK. 20分かかるんだ、すげー。遠いよねえ、ほんととあれは。

53C. なんでここまで来るの?

54KM. チャリ。

55NH. KMさんち、めっちゃ遠いの。

56OK. 帰りなんて坂だからね。

57KM. 佐川野のほうが近いよ。

58C. えー近いのー

59KM. 佐川野の方が近い。(KK. 佐川野歩いて行ったら)

60OK. KMさん、KMさん、帰りが坂だから辛いんだよね、あれはね。行きは坂だからすーって行けるけどね、帰りは上りだからね。

61KK. K(他クラスの生徒名)んちって川田?

62KM. 川田。

63KK. Kんち、Kんちって坂を上って

64C. S(他クラスの生徒名)んち行けるの?

65C. なにが一番近い?

66C. 間々田の方が近い。

67C. なんなんだろうな。

68OK. あれじゃない?ヤマダ電機。

69T. はい、じゃあちょっといいですか。当時の小学校が1, 2, 3, 4つあると考えると、4つの小学校と、えーここからたくさん児童が来るであろうと考えたときに、学校の建っている場所とたくさん子どもたちが来るかなあって場所をさ、照らし合わせて考えたとき、学校の建ってる場所ってどう?

70KM. 市街地?

71KK. 市街地じゃないの?

72T. うん(KK. あっある KM. 市街地)市街地だと思うのね、KMさんは。KMさんは一応KK君の意見には賛成。うん。はい、ここはね2つの意見が出てますけど、これだって地図で確認すると確かだね。ただ地図には表現されない細かい部分ってのも出てくるから、そうすると地元の人じゃないと分からなくて。じゃあ聞いてみよう、僕の方から。なんで一番古いのが野木小だったの?一番最初は野木なの、この町では。

73KM. 野渡に市街地があったから。

74T. 市街地が多い。一番おっかいのここが。

75KM. 分かんない。

76T. この地図で判断するとどうですか、みなさん。野木町の昔の地図で、一番賑やかそうな場所ってどこ?

(OK. 野木?)(T. うん?)(OK. 野木の…あー違うな。)(KK. でもさ、あれ、し、役場あるしさ)(T. 一番人が多そうなどころ。)(C. 友沼)(C. 川田)

77T. どこでしょうね。ちょっと候補が絞れるんだったら、ある程度出してもらった方が助かるんだけど。絶対ここだって言い切れなくても、なんかここはそうじゃないのってのがあったら言ってください。(C. 川田?)(C. うん)(C. 川田)(CY. 川田っぽい)川田と(C. 友沼)友沼。じゃ野木は違うのね、野木小のエリアは。(OK. うーん、でも野渡はけっこう…)野渡は違う。

78KK. あったぶん、あれじゃない。人口が多かったんじゃない、そこらへんに、野渡の。

79T. 野渡は人口が多そうなの、少なそうなの?みなさんの中

ではどう？地図で判断すると。

80KM. えーでも、市街地があるからって人口が多いとは限らないじゃないですか。

81T. まっ、そうだよな。そっか、そっか。市街地があるから絶対そうだとは限らない、と。うん。(C. うん)(C. じゃあ、うん)

82KK. 通いやすいってのは？(KM. あー)(C. うーん)(C. うーん)

83T. 野木小は野渡だよな、地域で言う。みなさんは普通に考えると、この地域の中で最初にできる小学校だとしたら、順番で考えたら、普通はこっつて考えるよね、みなさんは。(C. 中央が。)

84CY. 通いやすいのは、真ん中とかにあった方が(T. うん、町の真ん中)、とかのほうが(T. うん)みんな集まる。

85T. あっ、みんなが来る。

86CY. うん、来れるような。

87T. 小学校だよな、どう？こんだけの距離歩いて。(C. うん)(C. 遅刻)(C. 地獄)(C. ちよつと)

88T. つまり最初っから、全部の村、当時村だよな。村の人たちを全部一つのところに集めて、学校に連れてこようとして一つしか考えてなかったのか、ある程度分散して作る計画でいて順番で作ってたのかだよな。うん。1か所だけだったら、CYさんの言うとおりでね。真ん中にあのがいいと思うんだけど、来れる？小学生、一年生とか。(C. 来れない。)(C. 来れない。)(C. 来れない。)(C. 来れないか。)(C. 踏切とか危ない。)そうすると、最初は何か所か分散すると。そうすると、どうなんだろ、この考え。端っから作ってった(C. 順番に)。真ん中って人多そう？(C. 少なそう。)(C. そういない。)(C. あくまで地図の判断だよ、ね。これが全てじゃないんだけど。みんなが村長さんだったら、まっ何か所か作る計画があったとして、まず最初に作るかなって思うのはどこですか、みなさんは。みなさんだったら、この地図で判断する(C. 野渡)(C. 友沼)(C. 野渡)野渡っていう意見と(CY. かわだ)川田っていう意見と(C. 友沼)友沼？(C. 川田)じゃあ、それぞれ理由を教えて。まず、野渡って意見の人は根拠は何？なんで野渡に作ろうと思う？野渡と考えた人ちよつと教えてな。自分だったら、こういう理由で野渡って考えた人。(C. 川田？)(CY. かわだ)(SE. 川田)(CY. かわだ)うん、川田。あれっ、野渡って言ったけど、野渡って言った人教えて。なんでそれを野渡が最初って根拠。(C. 友沼も)うん、友沼の人も後でいくからね。川田の人も聞くよ。はい。じゃあ、ちよつとじゃあ友沼教えて。友沼っていう人。

890T. 友沼は…(T. うん)うーん

90T. とも、友沼に最初に作るっていう理由教えて。自分だっ

たら。

910T. えっ、なんか白い塗ってない部分って空地つつうか考えているから。

92T. 空地があるってこと？

930T. はい、空地が。

94T. あっ、そっか。空地がないと作れないか。(C. これは)(C. これのチョイスは)他に理由ありますか？じゃあ、川田を理由で挙げた人は？誰か教えてください。川田を理由に挙げた人。(CY. はい)はい。

95CY. えっと(T. うん)やっぱりなんか、なんだっけ、市街地も多いし(T. うん)あとこう線路で(T. うん)踏切とかがあるとしたら(T. うん)なんか小学生とか危ないかな、なんて。

96T. 踏切があるとところには作らない方がいいってこと？

97CY. あっなんかこっちから来る人とかなるべく少ない。

98T. あーなるほど。踏切を渡って来ることがないように、東と西で分けるべきだって考え。なるほど。そうすると、東っかわとして川田に作るべきだと、うん。(C. なるほど。)(C. 他に理由で付け足しとかあったらどうぞ。あと野渡の人、さっき出たんだけど僕の勘違いですかね。消しちゃう？NRさんあたりどうですか、出身者として。ちよつとすみません。話があっちこっちいっちゃって申し訳ないんですけど、はい、こっちいいですか。じゃ、学校作る条件として空地がないとできない。これいい、根拠としては、これ、人がいるってことだね。人がいないと学校が作ってもしょうがない。これも根拠として大丈夫？(C. 大丈夫。)(C. これだと納得？)(OT. これはいい)うん。そうすると、線路の右っかわって一番いいのが佐川野小だよな。線路の左っかわって一番いいのが(C. 野木小)じゃあ、なんで野木なの？友沼だったら納得、最初が。(C. だ)納得できないんだったら、なんでってことになるよ。うん、ちよつと聞いてみるか。はい、野渡に最初の小学校ができたのが納得できる人はどれくらいいる？なんか違う納得できない、どっちですか。一番最初の小学校、野木小ですよ、野渡ですよ。他に条件ないですか、小学校作る条件。土地がある。人がいる。(C. あー)(C. なんで)これに結びつきますか、地図で。つかない？地図だと限界？(C. ただの空地だったら…)(C. うーん)てか、空地があるからつつっちゃたらば他にも空地いっぱいあるよね。(C. うん)うん。人がいっぱい居そうなのは、地図で判断すると川田ですか、やっぱり。うん。じゃあ、もう時間がないので、また例によって感想一言書いてもらいますが、あの、番号書かなかった人がいるんで書いてください。(45分28秒)